

これからも、豊かな自然の宝「ゆずり葉の森」

## 住民活動の環境保全と健康づくりの活性化

スポーツクラブ21ゆずり葉  
会長 中村 一雄

阪神大震災の被災地で緑を取り戻す運動として、平成10年、ゆずり葉緑地公園とアヴェルデの北裏側で「ドングリふれあいの森植樹祭」を開催しました。兵庫県で拾い集めたドングリを徳島県で2年をかけて1mの苗木に育てました。両県から200名ずつ、計400名のボランティアを募り、2000本の苗木を植樹しました。この時、兵庫県のはからいで展望台に続く150m程の散策路が裏山に整備されました。この展望台からは眼下に広く宝塚を一望でき、その眺望の素晴らしさは感動的なものです。

これを機に「ゆずり葉コミュニティ健康福祉部」は豊かな自然の宝、裏山の有効活用を実践する活動を始めました。四季の移り変わりを感ずる緑と花が身近にあり、高齢者が無理なく、また家族が揃って歩くことのできる「健康づくりの散策路」があればと自前のハイキングコースづくりに着手しました。コースには光ガ丘、青葉台、北逆瀬台、西逆瀬台、ゆずり葉台から自由に入れるよう、行政が設置したフェンスなどの障害物を取り除き、下草刈りや間伐、植樹に加え、階段を作り、危険な急な山道にはロープを張るなどしました。また、コースに迷わないよう5色のコース標識、地図案内板、道標を設置しました。これは多くのボランティア参加者と里山



ゆずり葉森の広場に集合ハイキング。



アヴェルデ・県立西高裏側。



平成10年11月22日植樹祭を開催。



「櫻守の会」がコース指標整備。

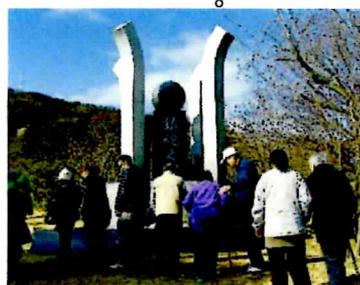


「ゆずり葉散策路」の道標。



毎年行われてきた植樹祭。

今年には阪神大震災から21年、宝塚市の犠牲者追悼行事としてゆずり葉緑地公園「鎮魂之碑」の下で献花・記帳を毎年1月17日に開催してきましたが、碑はこの春に末広中央公園へ移設され、今年が最後となりました。



整備活動をしている「櫻守の会」による賜物です。森づくりに興味をお持ちの方は、是非「櫻守の会」にご入会の上、下草刈り・枝打ちやレクリエーション活動などにご参加下さることを願っています。平成12年より、六甲山系グリーンベルト整備事業として阪神北県民局と連携し、森の管理規程作成や自治体主催の森づくりを行ない、健康づくりのフォーラムに宝塚市・神戸市・尼崎市・兵庫県などのパネリストとして参加した他、各地で開催されるパネル展示に出品するなど啓発・広報を行いました。「スポーツクラブ21ゆずり葉」は、「ゆずり葉コミュニティ健康福祉部」の事業活動を引き継ぎ、「ゆずり葉の森」の有効活用で環境保全活動と共に、地域住民みんなで散策・ハイキングを楽しみ、身心ともにリフレッシュすることで健康づくりを図り、校区コミュニティの活性化に努めています。人口9千人の逆小校区の高齢化率は43%と、宝塚市内でも断トツですが、一方で介護認定率は19%と低く、健康長寿を誇っています。健康長寿では日本一の長野県は病気に苦しむことなく、元気に暮らして長生きするピンピンコロリ（PPK）を目標とし、介護予防を徹底しています。日本一介護保険料の低い長野県のPPK運動を当校区でも実現したいものです。